経営比較分析表（平成29年度決算）

愛知県蒲郡市　蒲郡市民病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	300床以上～400床未満	非設置
経営形態	**診療科数**	**DPC対象病院**	**特殊診療機能　※１**	**指定病院の状況　※２**
直営	22	対象	透 Ｉ 未 訓 ガ	救 臨 輪
人口（人）	**建物面積（㎡）**	**不採算地区病院**	**看護配置**	
80,483	27,534	非該当	７ ： １	

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
382	－	－
許可病床（精神）	**許可病床（感染症）**	**許可病床（合計）**
－	－	382
稼働病床（一般）	**稼働病床（療養）**	**稼働病床（一般＋療養）**
382	－	382

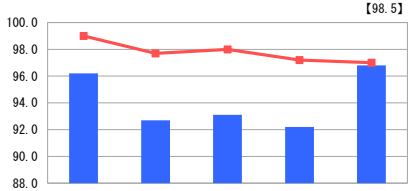
※１　ド…人間ドック　透…人工透析　Ｉ…ＩＣＵ・ＣＣＵ 未…ＮＩＣＵ・未熟児室　訓…運動機能訓練室　ガ…ガン（放射線）診療
※２　救…救急告示病院　臨…臨床研修病院　が…がん診療連携拠点病院　感…感染症指定医療機関　へ…へき地医療拠点病院　災…災害拠点病院　地…地域医療支援病院　特…特定機能病院　輪…病院群輪番制病院

グラフ凡例
■　当該病院値（当該値）
ー　類似病院平均値（平均値）
【】　平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性

①経常収支比率(%)

【98.5】

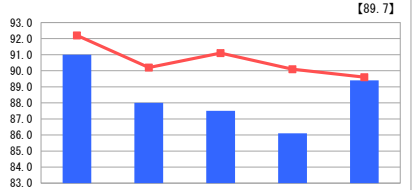


	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	96.2	92.7	93.1	92.2	96.8
平均値	99.0	97.7	98.0	97.2	97.0

「経常損益」

②医業収支比率(%)

【89.7】

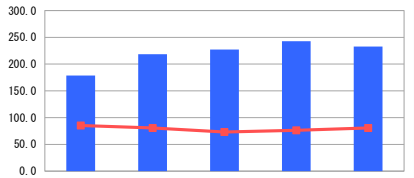


	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	91.0	88.0	87.5	86.1	89.4
平均値	92.2	90.2	91.1	90.1	89.6

「医業損益」

③累積欠損金比率(%)

【64.7】

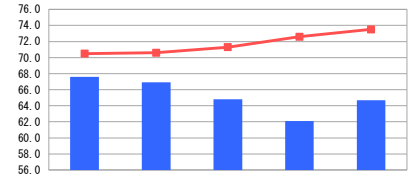


	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	178.8	218.6	227.3	242.6	232.9
平均値	85.3	80.7	73.1	76.3	80.7

「累積欠損」

④病床利用率(%)

【74.8】

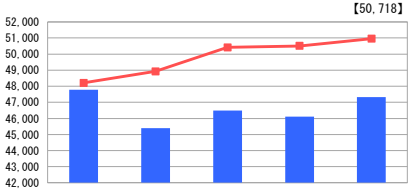


	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	67.6	66.9	64.8	62.1	64.7
平均値	70.5	70.6	71.3	72.6	73.5

「施設の効率性」

⑤入院患者１人１日当たり収益(円)

【50,718】

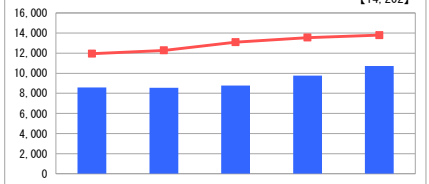


	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	47,777	45,392	46,484	46,111	47,330
平均値	48,203	48,921	50,413	50,510	50,958

「収益の効率性①」

⑥外来患者１人１日当たり収益(円)

【14,202】

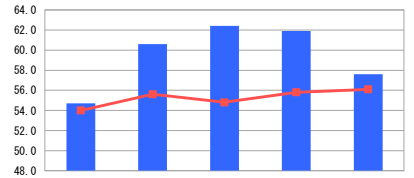


	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	8,580	8,558	8,787	9,757	10,710
平均値	11,941	12,272	13,096	13,552	13,792

「収益の効率性②」

⑦職員給与費対医業収益比率(%)

【55.0】

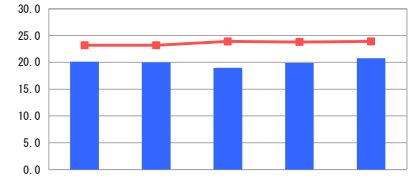


	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	54.7	60.6	62.4	61.9	57.6
平均値	54.0	55.6	54.8	55.8	56.1

「費用の効率性①」

⑧材料費対医業収益比率(%)

【24.3】



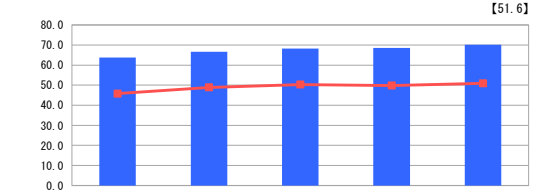
	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	20.1	20.0	19.0	19.9	20.8
平均値	23.2	23.2	23.9	23.8	23.9

「費用の効率性②」

2. 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)

【51.6】

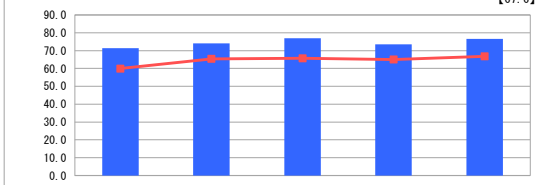


	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	63.7	66.6	68.3	68.6	70.2
平均値	45.8	48.9	50.3	49.8	50.9

「施設全体の減価償却の状況」

②器械備品減価償却率(%)

【67.6】

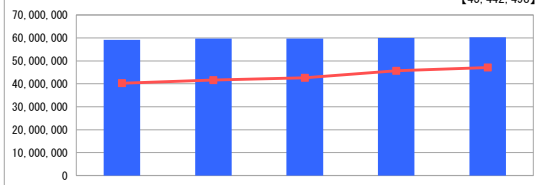


	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	71.4	74.1	76.9	73.6	76.6
平均値	59.9	65.4	65.7	65.0	66.8

「器械備品の減価償却の状況」

③１床当たり有形固定資産(円)

【45,442,498】



	H25	H26	H27	H28	H29
当該値	59,126,568	59,653,228	59,631,531	59,990,898	60,269,280
平均値	40,264,615	41,593,368	42,578,034	45,645,830	47,082,778

「建設投資の状況」

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

Ⅰ　地域において担っている役割

愛知県地域医療構想で、蒲郡市が含まれる東三河南部医療圏は高度急性期、急性期、慢性期が余剰であるのに対して、回復期は不足という状況にあるが、当院は回復期機能となる地域包括ケア病棟をすでに２病棟で運用している。

蒲郡市民病院は、市内の救急搬送の９０％以上を受け入れる市内唯一の二次医療機関として急性期医療を提供する一方で、高齢化率の高い当市の医療課題に対応する適切な医療の提供もしていかなければならない。

Ⅱ　分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率及び②医業収支比率は、入院患者数と手術件数の増加による入院収益の増が影響している。
③累積欠損金比率は、開院当時からの未処理欠損金が大きくなっているため平均値より高くなっている。
④病床利用率は、一般病床と地域包括ケア病棟で適切な医療を行い、平成２９年３月策定の新改革プランに沿って病床利用率７０％の達成を目指していく。
⑤入院患者1人1日当たり収益は、全体で平均を下回っているが、一般病床では手術件数の増加により52,684円と全国平均を上回っている。
⑥外来患者1人1日当たり収益は、高額医薬品の院内処方で外来単価が増加している。今後は検査件数及び逆紹介患者の増により、さらなる単価増を図りたい。
⑦職員給与費対医業収益比率は、医業収益の増加、一般病棟７対１看護体制と地域包括ケア病棟を運用するための適正な看護師配置により減少している。今後は看護師業務の見直しや計画的な採用をしていく。
⑧材料費対医業収益比率は、引き続きコンサルタント業者によるベンチマークを活用しながら、薬品費や診療材料費の価格交渉を継続する。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率及び③１床当たり有形固定資産について、蒲郡市民病院は平成９年１０月に現在地へ移転し２０年を経過しており、病院建物本体の減価償却は平成５０年度まで続く。
②器械備品減価償却率について、市民病院には大小さまざまな医療機器があり、検査や手術で使用するような高額な医療機器については、財政状況などを考慮しながら計画的に更新している。今後はＭＲＩ（磁気共鳴診断装置）の増設と臨床検査機器の更新を予定しており、地域の急性期医療を担う二次医療機関として、これからも安心して受診していただけるよう医療機器を整備していく。

全体総括

平成２９年３月に策定した蒲郡市民病院新改革プランでは、平成３２年度までに３３項目の具体的な取り組みを実践して、経常収支黒字化と病床利用率７０％を目指す。

具体的な取り組みの１つである人間ドック事業については、平成３０年４月から実施することで、検査結果による精密検査や手術件数の増加、検査から入院までの総合的なフォローを受診者へ提供することになる。

再編・ネットワーク化については、平成３０年度から名古屋市立大学と寄附講座の開設により、地域の医療課題や高度医療を研究することで連携強化を図りながらも、総合病院としての役割を果たすため、他大学とも引き続き連携していく。